

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ 国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧
- ⑤ 寄贈図書一覧
- ⑥ 電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 国立大学法人お茶の水女子大学
特別招聘教授に関する規則
- ⑨ 『ジェンダー研究』 編集方針・
投稿規程
- ⑩ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

戸谷陽子(基幹研究院人文科学系・文教育学部教授)

《任期》

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【研究員】

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2019(H31)年4月1日～2021(R3)年3月31日

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2019(H31)年4月1日～2021(R3)年3月31日

斎藤悦子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

2019(H31)年4月1日～2021(R3)年3月31日

【特任講師】

板井広明

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

【特任リサーチフェロー】

仙波由加里

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

平野恵子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

吉原公美

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

稲垣明子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

梅田由紀子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

滝美香

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

和田容子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

【客員研究員】

足立眞理子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

石井クンツ昌子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

【研究協力員】

佐野潤子

2020(R2)年4月1日～2021(R3)年3月31日

山根純佳

2020(R2)年11月1日～2021(R3)年3月31日



所長 戸谷 陽子

基幹研究院人文科学系・教授

文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース

博士前期課程比較社会文化学専攻英語圏・仏語圏文化学コース

博士後期課程比較社会文化学専攻言語文化論領域

専門分野: 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、文化政策、比較演劇論

所属学会等 日本英文学会(編集委員)

日本アメリカ文学会(東京支部評議員・編集委員)

日本アメリカ演劇学会(評議員)

日本アメリカ学会

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構(学位審査会専門委員)

主な業績

《報告書》

2021 「COVID-19 影響下の舞台芸術と文化政策——欧米圏の場合」報告書「米国(主にニューヨーク市)の場合」、早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点(令和2年度)特別テーマ研究 2、2021 年 3 月

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:20K00385)「米国舞台・表象空間における日本人ストックキャラクターの系譜と展開」、2020 年度～2023 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:16K02483)「米国舞台芸術の理論と実践におけるサブジャンルの成立と発展—人形・仮面・演じる物体」、2016 年度～2020 年度、研究代表者



専任教員(教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース(コース長)

生活科学部生活社会科学講座

専門分野:ジェンダーと政治、東アジア政治、フェミニズム理論、男女共同参画政策

所属学会等 International Political Science Association

American Political Science Association

European Conference on Gender and Politics

International Association for Feminist Economics

日本政治学会(分野別研究会「ジェンダーと政治研究会」、企画委員、書評委員)

日本フェミニスト経済学会

日本社会政策学会

ソウル大学日本学研究所『日本批評』海外編集委員

釜山大学女性学研究所『女性学研究』編集委員

ソウル大学比較地域秩序研究会共同研究員

日本比較政治学会

「女性・戦争・人権」学会

日米女性政治学者シンポジウム(JAWS、アメリカ政治学会国際交流プログラム)日本側コーディネーター

同志社大学人文社会科学研究所客員研究員

主な業績

《論文》

- 2020 「「慰安婦」問題の超国家性と記憶の「グローカル」化」(Transnationality of "Comfort Women" Issues and the Glocalization of Memory)、『思想』4月、no. 1152. 2020. pp.65~84.岩波書店
- 2020 「「慰安婦」問題の超国家性と記憶の「グローカル」化」、額満厚・朴容九編『時効なき日本軍「慰安婦」問題を問う』pp.71-104. 社会評論社、2020年7月5日
- 2020 Cowell-Meyers, Kimberly, Elizabeth Evans, Ki-young Shin, "Women's Parties: A New Party Family," *Politics & Gender* 16 (Special Issue 1 (Special Symposium on Women's Parties)) March: 4-25, 2020 (Online First DOI: <https://doi.org/10.1017/S1743923X19000588>), 25 Oct. 2019. (査読あり)
- 2020 Shin, Ki-young, "An Alternative Form of Women's Political Representation: *Netto*, A Women's Party in Japan," *Politics & Gender* 16 (Special Issue 1 (Special Symposium on Women's Parties)) March: 78-98, 2020 (Online First <https://doi.org/10.1017/S1743923X19000606>) 16 Dec. 2019. (査読あり) 1743-923X
- 2020 신기영, 「아베 정권의 ‘주권 회복’ 기획과 젠더정치」, 전재성 편『주권과 비교지역질서』, 241-272, 2020 (11.30). 사회평론 아카데미.
- 2021 金井郁・申琪榮、「生命保険営業の採用と育成——伝統的生保と後発型生保比較ジェンダー分析」、『大原社会問題研究所雑誌』No. 748(2月)、pp.71~90、2021. (査読あり)
https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/images/oz/contents/748_07.pdf
- 2021 申琪榮・濱田真里、「女性議員に対するオンラインハラスメント——首都圏の女性地方議員の事例を手がかりに——」、『生活経済政策』No. 291, 2021.04. pp.19-23.

《書評》

2020 前田健太郎著「女性のいない民主主義」、日本政治学会著『年報政治学』2020-I、pp.443 -446、2020 年 6 月 16 日、筑摩書房

《学会報告》

2020 申琪榮「セクシュアル・ハラスメントの理論的展開——ジェンダーと権力の視点から——」、社会政策学会 共通論題招聘、10 月 24 日～25 日、オンライン開催

《招待講演等》(すべてオンライン開催)

- 2020 Gender Justice and Policy Issues: Lessons from COVID-19 Crisis. 笹川平和財団主催・マレーシア女性リーダー研修、8 月 27 日
- 2020 「地方自治体女性議員が切り開く民主主義政治」立憲民主党地方自治体女性議員全国ネットワーク形成 総会基調講演、8 月 29 日
- 2020 駐新潟大韓民国総領事館主催「2020 韓日女性フォーラム:コロナ時代に女性が切り開く韓日の未来」、パネリスト、9 月 4 日
- 2020 「韓国フェミニズムの四世代」一般社団法人生活経済政策研究所主催シンポジウム『社会運動の再生に向けて～韓国の市民・女性・労働運動から学ぶ vol.1:韓国の女性運動活動家が語る #MeToo 運動——いかに韓国女性たちはつながり、たたかったのか? その戦略と成果は?』、9 月 24 日
- 2020 東京都港区男女共同参画センター企画リーブラユース部オンライン講座「女性の政治参画」、講演「私たちに必要なのは多様な市民の声が届く議会」、2020 年 10 月 18 日
- 2020 「世界の女性政党——生成と役割」市民ネットワーク全国大会基調講演、11 月 15 日
- 2021 アメリカ大使館主催:オンライン講演会:新型コロナ後の世界における女性の政治的リーダーシップ “Women’s Political Leadership in Post-COVID-19 Era”、パネリスト、3 月 31 日

《他大学講演》(すべてオンライン開催)

- 2020 上智大学 プロフェッショナル・スタディーズ 11 月
- 2020 ソウル大学 現代家族論 ゲスト講義 12 月
- 2020 津田塾大学 ジェンダーと社会変動 ゲスト講義 12 月 15 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12604)「ジェンダークォータの政治学——制度化と抵抗」、2019～2021 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:18H00817)「女性の政治参画の障壁:国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査」、2018～2020 年度(研究代表者:三浦まり・上智大学)、研究分担者



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース
文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等 International Association for Feminist Economics

日本社会学会
関東社会学会
日本フェミニスト経済学会(幹事会役員、『経済社会とジェンダー』(編集長
ジェンダー史学会(常任理事)
現代中国学会
中国女性史研究会
経済理論学会分野別ジェンダー分科会

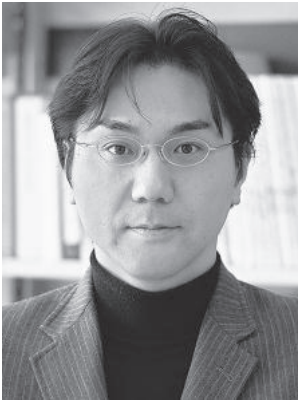
主な業績

《著書・論文》

- 2020 「『香港社会の家事労働者——『中国』と『外国』の狭間における分断と連帯」、伊藤るり編著『家事労働の国際社会学——ディーセント・ワークを求めて』、人文書院。
- 2020 〈改革開放時期性別秩序の重組: 著眼於婦聯組織網絡〉小濱正子他編『被埋没の足跡: 中国性別史研究入門』臺大出版中心, 2020 年 11 月。
- 2020 「これは『武漢のウイルス』か: 新型コロナウイルスと『中国人』の排除をめぐる」、アジア女性資料センター『F visions: 世界が見えるフェミニスト情報誌』(1), pp.20-22。

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:20H01468)「新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー」、2020～2022 年度(研究代表者:堀芳枝・早稲田大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:19H01578)「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」、2019 年度～2021 年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603)「香港における移住女性の再生産労働力配置——「グローバル・シティ」のジェンダー分析」、2019 年度～2021 年度、研究代表者



特任講師 板井 広明

専門分野: 社会思想史、経済学史、食の倫理とジェンダー

所属学会等: 経済学史学会

日本イギリス哲学会

社会思想史学会

政治思想学会

日本フェミニスト経済学会(幹事)

日本有機農業学会

経済理論学会(分野別ジェンダー分科会コアメンバー)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「リベラル・フェミニズムの再検討」(22 頁参照)／18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相: 功利主義的フェミニズムの可能性(23 頁参照)
- ・ IGS 国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー: AIT ワークショップ 20 年記念シンポジウム」企画・報告(48 頁参照)
- ・ IGS セミナー「ヴァージニア・ウルフのフェミニズム: 現代日本との呼応」企画・司会(57 頁参照)／「ダナ・ハラウェイのフェミニズム」企画・司会(64 頁参照)／「ブリテンにおけるフランス革命論争: バーク VS ウルストンクラフト」企画・司会(66 頁参照)
- ・ 担当シンポジウムならびにセミナーのウェブサイト用報告書の作成
- ・ 国際教育プログラム「AIT ワークショップ」(94～95 頁参照)
- ・ 大学院講義科目「国際社会ジェンダー論」演習(103 頁参照)
- ・ IGS 運営会議陪席メンバー
- ・ ウェブサイト・SNS・メーリングリスト等による情報発信・広報(116 頁参照)
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成(42～44 頁参照)
- ・ 情報機器・ネットワーク管理

主な業績

《著書・論文》

2021 「ジェンダーと平等」、新村聡・田上孝一編著『平等の哲学入門』、社会評論社、2021 年

2021 “Bentham on Self-interest: Institutional Control of Self-interest” *A Genealogy of Self-Interest in Economics*, eds, Susumu Egashira, Masanori Taishido, D. Wade Hands, Uskali Maeki, Springer.

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号: 19K01570)「18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相: 功利主義的フェミニズムの可能性」、2019～2021 年度、研究代表者



特任リサーチフェロー 仙波 由加里

専門分野: 生命倫理学、生殖技術とジェンダー、生殖技術に関連する倫理的問題

所属学会等: 日本医学哲学・倫理学会(国際誌編集委員・広報委員会委員)
日本生命倫理学会(評議委員)
日本生殖看護学会
European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)
Society for Social Studies of Science (4S)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「生殖医療とジェンダー」(26 頁参照)／「性と生殖に関する教育と情報提供」(27 頁参照)／「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(28 頁参照)
- ・ NTNU 国際共同研究プロジェクト「NJ_BREGED プロジェクト」プロジェクトメンバー(96～98 頁参照)
- ・ IGS 国際セミナー(生殖領域)「ケアのインフラストラクチャーとしての臨床データ報告:生殖補助技術(ART)の臨床結果登録に対するフェミニストアプローチ」企画・コーディネーター・司会(51 頁参照)／「提供精子・提供卵子による家族づくりとドナーリンキング(血縁者探し)」企画・コーディネーター・司会(55 頁参照)／「月経教育と女性の生涯の健康」企画・コーディネーター・司会(62 頁参照)
- ・ IGS 国際セミナー(生殖領域)3 本の HP 用報告書(各日本語・英語)の作成
- ・ IGS 研究協力員研究報告会、企画・コーディネーター・司会(72 頁参照)
- ・ IGS 研究協力員研究報告会の HP 用報告書(日本語・英語)の作成
- ・ 雑誌『ジェンダー研究』、編集スタッフ。主に特集の研究ノートと現場報告論文・および書評編集担当(108～111 頁参照)
- ・ 海外からの問い合わせに対応
- ・ IGS の HP のイベント報告(英語)の確認作業

主な業績

《著書・論文》

- 2020 「2. 生命の始期をめぐる倫理」有田悦子、足立智孝編、『薬学人のための事例で学ぶ倫理学』南江堂(2020 年 4 月)、pp. 26-45.
- 2020 『2020 年度 IGS 国際セミナー(生殖領域)報告書』IGS Project Series No. 18(2020 年 3 月)

《学会報告・講演》

- 2021 オンライン研究会:国立精神・神経医療研究センター臨床研究支援部研究プロジェクト「筋ジストロフィーの発症前・早期診断および早期治療における倫理的課題の検討」研究会(2021 年 2 月 23 日にオンライン開催)において、希少疾患を持つ女性へのインタビューをベースに、「家族性希少疾患の発症前・早期診断・治療における課題—家族性希少疾患の女性患者の経験を参考に—」というタイトルで、希少疾患を持つ女性が出生前検査や着床前診断をどのようにとらえているかを報告
- 2021 明治学院大学の柘植あづみ教授が研究代表者をつとめる研究課題「生殖医療技術の利用における選択」(学術振興会科学研究費補助金(科研費 B:20H01408))で 2021 年 2 月 11 日に開催されたオンラインセミナーで、テーマ「出自を知る権利をめぐる世界各地の法制度とその運営」を報告。Youtube で録画を配信(<https://www.youtube.com/watch?v=XScj5RKpNQg>)

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:18K00034)「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」、2018 年～2020 年度、研究代表者



特任リサーチフェロー 平野 恵子

専門分野: 国際社会学、ジェンダー研究、インドネシア地域研究

所属学会等: International Association for Feminist Economics

日本社会学会
国際ジェンダー学会 (理事・評議員)
日本フェミニスト経済学会 (幹事・監査)
アジア政経学会
東南アジア学会
移民政策学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「国際労働力移動のジェンダー分析」(34 頁参照) / 「移民受入れ国—送出国の政策相互
連関——国際社会学からの比較研究」(35 頁参照) / 「現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容」
(36 頁参照) / 「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」(32 頁
参照)
- ・ IGS セミナー「米国移民管理レジーム下でのトランスナショナルな社会空間の再編」企画・コーディネーター・司会
(53 頁参照) / 「『家事労働の国際社会学』を読む」司会・応答者(59 頁参照) / 「インドネシアで家事労働者を組織
化すること」企画・コーディネーター・司会・ディスカッサント(68 頁参照)
- ・ IGS 国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー: AIT ワークショップ 20 年記念シンポジウム」司会(48 頁参照)
- ・ 担当セミナーのウェブサイト用報告書(各日本語・英語)の監修
- ・ 「東アジアにおけるジェンダーと政治」booklet series 3 & IGS project series 19「ジェンダー・選挙・女性の政治的代
表性—2019 年インドネシア総選挙に関する分析」監訳・編集刊行(112 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』編集スタッフ(108~111 頁参照)。主に特集、一般投稿論文担当。ほか『ジェンダー研究』編集刊
行業務全般の統括。
- ・ 海外からの問合せ・訪問者対応

主な業績

《著書・論文》

2020 「なぜジャカルタで家事労働者として働くのか——インドネシアにおける経済成長と元移住家事労働者の
選択」『経済社会とジェンダー 日本フェミニスト経済学会誌』第 5 巻: 29-48.

《学会報告・講演》

2020 ディスカッサント: 「Masako Ishii, Naomi Hosoda eds., 2019, Asian Migrant Workers in the Arab Gulf States:
The Growing Foreign Population and Their Lives, Brill Academic Publication. 合評会」、インターアジアな
イスラームとジェンダー・プロジェクト(イスラーム・ジェンダー学科研)、2020 年 12 月 10 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号: 17K02067)「現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容」、
2017~2020 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 A(課題番号: 19H00607)「移民受入れ国—送出国の政策相互連関——国際社会学
からの比較研究」、2019~2021 年度(研究代表者: 小井土彰宏・一橋大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号: 19H01578)「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働
者の歴史的系譜と連帯」、2019~2021 年度(研究代表者: 定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者



研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

副理事(国際交流担当)

国際教育センター長、グローバル協力センター長

文教育学部人間社会科学科教育科学コース

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

同 人間科学系長

文教育学部人間社会科学科子ども学コース

博士前期課程人間発達科学専攻保育・児童学コース

博士後期課程人間発達科学専攻保育・児童学領域

専門分野: 子ども社会学、教育学

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー

国際共同プロジェクト INTPART



研究員 斎藤 悦子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 生活経済学、生活経営学、企業文化論

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



客員研究員 足立 真理子

(本学名誉教授)

委嘱期間:2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

研究プロジェクトタイトル

新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー(科学研究費基盤研究 B 課題番号:20H01468)

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々

研究成果

《論文掲載》

「思想の言葉 『資本主義はもはや異性愛主義を必要としなくなったのかという問い』を再考する」岩波書店『思想』2020 年 4 月

《シンポジウム登壇》

IGS セミナー「『家事労働の国際社会学』を読む」(本報告書 59 頁参照)



客員研究員 石井クンツ 昌子

(本学名誉教授、立教大学特任教授)

委嘱期間:2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

研究プロジェクト

国際共同プロジェクト INTPART(本学側代表/国際比較研究アンソロジーエディター/「ジェンダーと家庭」国際比較研究/「父性と男性性」国際比較研究)

研究成果

《論文掲載》

“Japanese Women, Past and Present.” In Johnsraten, Anne-Stine. *Good Wife, Good Mother*. Stockholm, Sweden: Journal. pp.88-91. 2020.

“Lone Dwellers of the Three Cities.” In Nomiya, Dai (Ed.). *Urban Development and Social Change in Megacities in East Asia: Seoul, Tokyo and Shanghai in the Past and Present*. Tokyo: Chuo University Press. pp.121-146. 2021. (Kim, JiYoung, Suping Huang との共著)

「巻頭言 男女がともにワークとライフを」、日本女性学習財団『We learn』第 797 巻、p.3、2020

「私のポジティブ家族社会学:日米の研究・教育生活」、『生活社会科学研究』第 27 号、pp.29-40、2021

「The National Survey of Family Growth (NSFG): 家族研究における有用性」、『社会と調査』第 26 巻、p.108、2021

笹川平和財団 新しい男性の役割に関する研究会(編)『男性のシェア、ケア、フェアに向けて「男性の新しいあり方」に関する政策提言』、2020

日本学術会議 社会学委員会 Web 調査の課題に関する検討分科会(編)『Web 調査の有効な学術的活用を目指して』、2020

福井県ふるさと県民局(2020)『福井県女性の人生選択と自己実現に関する調査』報告書

《学会発表等》

“Caring Masculinity and Men’s Familial Roles:A Comparison among Five East Asian Cities,” Rikkyo University Brownbag Seminar, Tokyo, June. 2020

「男性のジェンダー意識とケアへの関与:東アジアと欧米の都市圏データの比較から」、家族社会学学会オンライン大会 2020 年 9 月(多賀太、伊藤公雄、植田晃博との共同発表)



研究協力員 佐野 潤子

(慶応義塾大学特任講師)

委嘱期間: 2020年4月1日～2021年3月31日

研究プロジェクトタイトル

国際共同プロジェクト INTPART

「家庭科教育とジェンダー平等」国際比較研究

女性の金融行動とジェンダー

研究成果

《論文掲載》

田姫・岡村利恵・佐野潤子「中日育児家庭の生活方式选择: 从角色调整时资源利用角度的考察」(日本と中国の育児世代のライフスタイル選択: 役割調整のための資源利用の視点から)、張季風・胡澎・吳小英編『少子高齢化社会与家庭: 中日政策与实践比较』(少子高齢化社会と家族: 日中社会政策と実践比較)、2021年1月、社会科学文献出版社・当代世界出版支社、pp.234-246.

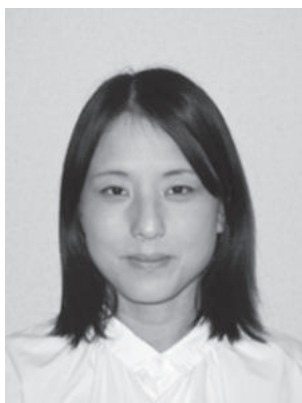
《学会発表》

「日本証券業協会調査にみる女性の資産管理」、2020年12月19日、生活経済学会関東部会、東京(オンライン)

《シンポジウム等登壇》

IGS 主催研究会「IGS 研究協力員研究報告会」における発表(本報告書 72 頁参照)

「長寿社会における女性の金融行動(資産管理、資産選択、資産運用): 日本証券業協会調査からの考察」(2021年3月11日)



研究協力員 山根 純佳

(実践女子大学准教授)

委嘱期間: 2020年11月1日～2021年3月31日

研究プロジェクトタイトル

日本のケアの市場化と介護労働へのインパクト

研究成果

《論文掲載》

“Gender equality, paid and unpaid care and domestic work: Disadvantages of state-supported marketization of care and domestic work,” *The Japanese Political Economy*, 47-1 (Feb, 2021), pp.44-63.

《学会発表》

「ケアの市場化とジェンダー: 介護現場における男性活躍」国際ジェンダー学会 2020年大会 個人報告 和洋女子大学 2020年9月13日

《シンポジウム等登壇》

IGS 主催研究会「IGS 研究協力員研究報告会」における発表(本報告書 72 頁参照)

「ケア・家事労働の市場化はジェンダー平等を実現するか」(2021年3月11日)

【事務系スタッフ】



特任リサーチフェロー 吉原 公美

主担当業務:ジェンダー研究所事務局統括

ジェンダー研究所特別招聘教授招聘事務および業務活動支援

ジェンダー研究所全体予算管理

国際共同プロジェクト INTPART ファシリテーター

各種報告書・報告データ作成

国際シンポジウム等運営 ほか



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

主担当業務:シンポジウム等運営関連

AIT ワークショップ事務

研究所事業事務(大学本部各種調査対応含む)

会計事務

書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主担当業務:文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理関連

IGS 史料電子化プロジェクト主任

研究所事業事務

シンポジウム等運営事務

会計事務

書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主担当業務:会計事務関連

研究所事業事務

シンポジウム等運営事務

書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主担当業務:成果発信関連

年次事業報告書編集

『ジェンダー研究』編集員

成果発信日本語原稿校閲

シンポジウム等運営補佐

研究所事業事務補佐 ほか

【資料】②研究プロジェクト一覧

(I) 政治・思想とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究

【研究担当】 申琪榮 (IGS 教授)

【研究内容】

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一律ではない。本研究プロジェクトでは、日本、韓国、台湾の民主主義の有り様と政治代表性の関係について、ジェンダー視点に立脚した国際共同研究により比較分析する。議員を対象としたアンケート調査、政党、議員、市民社会関係者へのインタビューや現地でのフィールドワークを実施するほか、定期的な国際シンポジウムや研究集会を開き、研究交流を促進する。東アジア地域において、政治代表性の男性優位性が続くメカニズムを明らかにし、政治制度におけるジェンダー公平性・多様性を実現させる政策も検討する。

2020 年には3カ国の議員アンケートの結果を分析した研究論文を研究会メンバーら全員が学術雑誌の特集として掲載することを目指し、2回オンライン研究会を実施した。また、前年度に始めた東アジアの #MeToo 運動の広がりについての共同研究の成果を *Politics & Gender* に Special Symposium として投稿した。[科研費 C ジェンダークォータの政治学:制度化と抵抗] (本報告書 20 頁参照) の 2 年目において韓国のフィールドワークを計画したが、コロナ禍により海外渡航ができなかったため、集めたデータを分析し、英語論文を執筆して *International Political Science Review* に投稿した。

そのほか、他大学、国内学会において研究成果に対する講義や報告も多数行なった。(本報告書 18 頁参照)

科学研究費基盤研究 B (研究課題番号 18H00817)

女性の政治参画の障壁: 国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査

【研究代表者】 三浦まり (上智大学教授)

【研究分担者】 申琪榮 (IGS 教授)、Noble Gregory (東京大学教授)、スティール若希 (名古屋大学特任准教授)、MCELWAIN KENNETH (東京大学教授)、大山礼子 (駒澤大学教授)

【期間】 2018～2020 年度

【研究内容】

女性の政治参画に対する障壁を国会議員および主要政党の都道府県支部への調査を通じて明らかにする。国際的な研究成果に基づいて、とりわけ「政党の候補者リクルートメントと公認決定過程」に焦点をあて、郵送調査と政党関係者へのインタビュー調査を組み合わせ、政治参画に関する男女差、政党差、地方差はどのように見られるかを考察する。

2020 年はイギリスの Sarah Childs ロンドン大学教授を招聘してオンライン国際シンポジウムを開催した。また、新潟県、長野県の自民党県連へのヒアリングを行った(新潟県は2回目)。さらに、上智大学にて地方政治や県議会に関する研究会を数回開催した。

国会議員の地元活動を理論化した「Facetime」に関する共著論文を執筆、修正を行った。(本報告書 19 頁参照)

科学研究費基盤研究 C(研究課題番号 19K12604)

ジェンダー・クオータの政治学: 制度化と抵抗

【研究代表者】申琪榮 (IGS 教授)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、議会のジェンダー公平な代表性を確保するために導入されたジェンダー・クオータ(女性候補者割当制)の効果と、その制度が女性の政治的代表性に及ぼす影響を韓国の事例により分析するものである。2 年目になる 2020 年度には、ジェンダー・クオータ制度の効果を取りわけ女性議員の政治キャリア及び議会活動を中心に分析することを目指した。しかし、コロナ感染拡大によって海外出張ができなくなり、女性議員に対する聞き取り調査は実施できなかった。その代わりにオンラインデータ収集、1 年目に収集したデータの分析を中心に研究を行った。投稿のために論文執筆にも力を注ぎ *International Political Science Review* に投稿した。

また、海外学会が中止、延期となったため計画通りの国際的な研究交流は進まなかったが、オンラインウェビナー等を通じて研究交流を続けることができた。(本報告書 20 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

「東アジアの越境的女性運動」研究

【研究担当】大橋史恵 (IGS 准教授)

【研究内容】

今日の女性運動は、路上や広場、公共交通機関、大学キャンパス、議場、ジャーナリズム、サイバー空間など、さまざまな場で実践され、課題解決に向けた国際的連帯とアクションを生み出している。本研究は東アジアにおけるそのような越境的女性運動の展開について考察するものである。具体的には(1)ILO「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」(第 189 号条約)に関連する労働運動、(2)反軍事化をめぐる女性たちの運動、(3)中国の女権主義者たちのトランスローカル／トランスナショナルな運動に目を向ける。

2020 年度は新型コロナウイルス感染の拡大を受け、中国の女権主義者／ソーシャルワーカーの郭晶が武漢でのロックダウンの日々を記録した『武漢封城日記』をはじめとして、ウェブや SNS におけるフェミニストたちの行動の記録をテキストとして研究を進めた。この過程において得られた知見をもとに、6 月にはパンデミックにともなうレイシズムの拡大に警鐘を鳴らす論稿を『f-visions』に発表した。10 月にはシンポジウム「開国の前線に立つ女性たち—近代の性売買におけるインターナショナルリティー」をジェンダー史学会、お茶の水女子大学大橋史恵研究室、明治学院大学国際平和研究所(PRIME)の共催において実施した。(本報告書 21 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

リベラル・フェミニズムの再検討

【研究担当】板井広明 (IGS 特任講師)

【研究内容】

本研究プロジェクトの目的は、ベンサムやウルストンクラフト、J.S.ミルといった第1波フェミニズムあるいはリベラル・フェミニズムの思想・運動を再検討することにある。リベラリズムの公私二元論を前提にしたリベラル・フェミニズムは乗り越えの対象でしかないという捉え方が一般的だが、リベラリズムにおいて、「公」に対する「私」の領域は単に個人的自由の空間であると放任されるのではなく、不正義が存在すれば介入が正当化される空間でもあった。本研究では、ベンサムの女性論に関する草稿研究と、J.S.ミルの *The Subjection of Women*, 1869 のテキスト読解と『女性の隷従』新訳の作業を進め、リベラル・フェミニズム再検討の機運を盛り上げることを狙う。(本報告書 22 頁参照)

科学研究費基盤研究 C(研究課題番号 19K01570)

18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相: 功利主義的フェミニズムの可能性

【研究代表者】板井広明(IGS 特任講師)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は特に J.ベンサム的女性論と家族論を中心に、18～19 世紀の功利主義フェミニズムの諸相を明らかにする。従来看過されがちであった功利主義哲学の論理とフェミニズム思想の関わりを明らかにするために、「最大多数の最大幸福」を標語に社会改革を構想したベンサムが、各人の幸福最大化のために、両性への平等な権利付与、女性に抑圧的な社会に存在する権力関係の改革、期限付き結婚制度の確立を主張するに至った思想形成過程を考察する。このようにしてベンサムの功利主義フェミニズムを『新ベンサム全集』の最新テキストや未公開の草稿から再構成し、19 世紀の多様なフェミニズムに対する功利主義の思想的インパクトを明らかにする。(本報告書 23 頁参照)

(Ⅱ) 生殖・身体とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

生殖医療とジェンダー

【研究担当】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー)

【研究内容】

生殖医療は大きく①望まない妊娠や出産を回避するための医療技術(避妊・人工妊娠中絶)、②妊娠・出産を望みながら通常の生殖行為ではそれが叶わない者を支援するための医療技術(不妊治療、生殖補助技術)、③生まれてくる命を選別する医療技術(出生前診断・産み分けなど)の 3 つに分けることができる。生殖医療の進歩はめざましく、第三者の精子や卵子、代理出産を利用した生殖医療技術の是非について社会や専門家集団の間での検討が不十分なまま、一般社会での利用が広まりつつある。そこで 2020 年度は、少子高齢化が進行する日本社会の中で、子どもを望みながらもそれが叶わない人々、特にその中でも子どもを産まない女性への社会的圧力と、その一方で様々な理由で障碍のない子どもを望むために需要の高まっている出生前検査や着床前診断に関連する問題に目を向け、研究をすすめた。(本報告書 26 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

性と生殖に関する教育と情報提供

【研究担当】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー)、

【研究内容】

世界的に子どもへの性教育は不可欠であるという認識が広まり、国連が発表している *International Technical Guidance on Sexuality Education* でも、正確な性教育はリスクある性行動を減少させる効果があると述べられている。日本でも性教育の重要性が認識されるようになってきてはいるが、今なお、性教育の中では女性の産む性としての側面ばかりが強調され、多くの女性が長い年月にわたって経験する月経についての基本的な情報ですら十分に教えられているとはいえない。また近年、6 組に 1 組が直面するという不妊の問題についても、成人前に男女問わず教育を通して知っておくべきが、それが足りないために、成人後に不妊についての誤った情報に翻弄され、苦勞する人も少なくない。初婚年齢、第一子の出産年齢が高齢化する日本で、不妊に直面する人が増え、不妊への対処として使われる生殖補助技術の臨床データも専門家たちだけに活用されるものではなくな

ってきている。こうしたデータの収集・管理、情報開示のありかたや、一般の人たちがそうした情報をどう読み取り、人生の決定の中で活用するかが重要になってきている。本研究プロジェクトではそうした性と生殖に関する教育と情報提供のあり方等について、国外研究者と交流を通して研究に取り組んでいる。また教科書の分担執筆・出版を通して、若い世代への生殖医療に関する教育にも取り組んだ。(本報告書 27 頁参照)

科学研究費基盤研究C (研究課題番号 18K00034)

諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究

【研究代表者】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2018～2020 年度

【研究内容】

日本の精子提供はこれまで匿名で実施されてきた。近年、卵子提供にも注目が集まる中、ドナーの匿名性の是非について議論される機会がこれまで以上に増えると予測される。本研究は国内での議論に向けて、出生者の出自を知る権利を法で保障する国について、法制定までにどのような議論があったか、および法施行後の状況を明らかにするものである。(本報告書 28 頁参照)

(Ⅲ) 経済・移動とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々

【研究担当】足立眞理子 (IGS 客員研究員)

【メンバー】大橋史恵 (IGS 准教授)、板井広明 (IGS 特任講師)

【研究内容】

本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体の断片化や排除／包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダー分析の視点から行う。(本報告書 30 頁参照)

科学研究費基盤研究B (研究課題番号 20H01468)

新興アジアにおけるIT-BPOの国際分業の成立とジェンダー

【研究代表者】堀芳枝 (早稲田大学教授)

【研究分担者】大橋史恵 (IGS 准教授)、足立眞理子 (IGS 客員研究員)、
小松寛 (茨城大学研究員)、落合絵美 (岐阜大学特任助教)、

【期間】2020～2022 年度

【研究内容】

本共同研究は、IT-BPO の実証研究と国際比較によって、アジアについての新しい国際政治経済学を構築するものである。具体的には IT-BPO 産業の新国際分業の成立にともなう女性の労働力の再配置と、成長の果実としての中間層の成長と消費、都市化の進展、さらにはこうした経済社会の変容が、各国の民主主義に与える影響を国際比較から検討する。(本報告書 31 頁参照)

科学研究費基盤研究 B(研究課題番号 19H01578)

再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯

【研究代表者】定松文(恵泉女学園大学教授)

【研究分担者】小ヶ谷千穂(フェリス学院大学教授)、大橋史恵(IGS 准教授)

平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)、伊藤るり(津田塾大学教授)、徐阿貴(福岡女子大学准教授)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、再生産労働の国際分業が進展する日本において、次の二点に焦点を当て実証的に検討する。第一に歴史的視点からの雇用主一派遣企業―労働者の非対称的な関係、第二に家事・ケア労働者が有する限定的社会関係資本から選択する行為や集合行為による、労働者を取り巻く制度の変容。(本報告書 32 頁参照)

科学研究費基盤研究 C(研究課題番号 19K12603)

香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析

【研究代表者】大橋史恵(IGS 准教授)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、香港社会において異なる移住女性による再生産労働力がどのように配置されてきたかを、中国人家事労働者と外国籍家事労働者およびその雇用主を対象としたオーラル・ヒストリーの聞き取りから明らかにするものである。香港が輸出志向工業化路線から東アジアの金融・貿易サービスの中核を成す「グローバル・シティ」へと転換した時期は、外国籍の家事労働者の受け入れが拡大していくとともに、主に広東省に出自をもつ中国人女性の労働力配置に変化が生じた時期と重なる。1980 年代末から今日までの香港の社会経済構造の変動において、トランスナショナルにあるいはトランスローカルに移動して家事労働者になった女性たちはどのように受け入れられたのか。異なるケアの担い手たち(移住女性)と受け手たち(雇用主)の「ケアの記憶」を通じて香港の再生産領域の変化をとらえたい。

2020 年度はコロナ禍のために現地での調査が実現できていないが、前年度に行ったアーカイブ調査の分析を進めている。また 2020 年 2 月に人文書院より『家事労働の国際社会学―ディーセント・ワークを求めて―』が刊行されたことを受けて行われた IGS セミナーでは、香港における近年の労働運動の変化を含めて議論を行った。(本報告書 33 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

国際労働力移動のジェンダー分析

【研究担当】平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)

【研究内容】

国際労働力移動は、グローバルな政治経済状況や受入国における移民政策のみならず、送出国の政治、経済、文化といった種々の要因に規定される。本研究では、二つの事例研究から、送出国からみた国際労働力移動を考える。具体的には、1)米墨間の労働力移動、2)2019 年インドネシア選挙(大統領選挙、総選挙)における海外雇用政策の争点化。(本報告書 34 頁参照)

科学研究費基盤研究 A(研究課題番号 19H00607)

移民受入れ国-送出し国の政策相互連関:国際社会学からの比較研究

【研究代表者】小井土彰宏(一橋大学教授)

【研究分担者】伊藤るり(津田塾大学教授)、上林千恵子(法政大学教授)、鈴木江理子(国士舘大学教授)、
塩原良和(慶應義塾大学教授)、宣元錫(大阪経済法科大学等研究員)、
柄谷利恵子(関西大学教授)、定松文(恵泉女学園大学教授)、園部裕子(香川大学教授)、
森千香子(同志社大学教授)、北川将之(神戸女学院大学教授)、
毛利さとみ(恵羅さとみ)(成蹊大学研究員)、眞住優助(金沢大学講師)、
堀井里子(国際教養大学助教)、平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、移民をめぐる諸問題を、受入れ国および送出し国における諸政策の動的連関が及ぼす影響から考察する。分担者は、インドネシアの海外雇用政策分析を担当している。

2020 年度は、コロナ禍のため現地調査がかなわず、当初の研究計画から大幅な変更を迫られ、オンラインでのアンケート調査、インタビュー調査を実施した。(本報告書 35 頁参照)

科学研究費基盤研究 C(研究課題番号 17K02067)

現代インドネシアにおける「移住・家事労働者」の変容

【研究代表者】平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2017～2020 年度

【研究内容】

本研究は、インドネシアにおける「移住・家事労働者」の変容を、移民政策および国内家事労働者の派遣形態の変化から検討する。

本研究の最終年度にあたる 2020 年度は、3 年目までに得られた知見を学会誌にて発表した。また、インドネシア国内家事労働者へのコロナ禍の影響を、グーグルフォームを用いたアンケート調査、そして zoom などオンラインによるインタビュー調査から明らかにし、その分析結果を学会誌に投稿した。(本報告書 36 頁参照)

【資料】③協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	89 頁
	(連) INTPART プロジェクト	96 頁
デボラ・デンプシー (Deborah Dempsey) スウィンバーン工科大学・豪	(セ) Family Building by Donor Conception and Donor-linking	55 頁
グロ・コースニス・クリステンセン (Guro Korsenes Kristensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(シ) The Egalitarian Norway: Scrutinizing the ‘Success Story’	45 頁
	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	89 頁
	(連) INTPART プロジェクト	96 頁
日下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(シ) 開発・教育・ジェンダー	48 頁
	(連) AIT ワークショップ	94 頁
プリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(シ) The Egalitarian Norway: Scrutinizing the ‘Success Story’	45 頁
	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	89 頁
	(連) INTPART プロジェクト	96 頁
カレン・アン・シャイア (Karen Ann Shire) デュースブルグ・エッセン大学・独	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
ソン・チャンフイ (Changhui Song) アジア工科大学院大学・タイ	(シ) 開発・教育・ジェンダー	48 頁
巢内尚子 (Naoko Sunai) ラバール大学・カナダ	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
篠崎香子 (Kyoko Shinozaki) ザルツブルグ大学・オーストリア	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
マウラ・ステイーブンス・チュ (Maura Stephens-Chu) ハワイ大学・米	(セ) 月経教育と女性の生涯の健康	62 頁
アニ・ウィダヤニ・スチプト (Ani Widayani Soetjipto) インドネシア大学・インドネシア	(セ) インドネシアで家事労働者を組織化すること	68 頁
呉嘉苓(ウー・チアリン) (Chia-Ling Wu) 国立台湾大学・台湾	(セ) Data Reporting as Care Infrastructure: Feminist Approaches to ART Registries	51 頁
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(シ) The Egalitarian Norway: Scrutinizing the ‘Success Story’	45 頁
	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	89 頁
	(連) INTPART プロジェクト	96 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・研究会、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

氏名・所属	協力事業*	参照
【国内】		
飯尾真貴子 (Makiko IiO) 一橋大学大学院	(セ) 米国移民管理レジーム下でのトランスナショナルな社会空間 の再編	53 頁
伊田久美子 (Kumiko Ida) 大阪府立大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
伊藤るり (Ruri Ito) 津田塾大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
犬塚元 (Hajime Inuzuka) 法政大学	(セ) ブリテンにおけるフランス革命論争	66 頁
ワオデ・ハニファー・イステイコマ (Waode Hanifah Istiqomah) 一橋大学・院	(セ) インドネシアで家事労働者を組織化すること	68 頁
梅垣千尋 (Chihiro Umegaki) 青山学院女子短期大学	(セ) ブリテンにおけるフランス革命論争	66 頁
小ヶ谷千穂 (Chiho Ogaya) フェリス学院大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
大崎麻子 (Asako Osaki) 関西学院大学ほか	(シ) 開発・教育・ジェンダー	48 頁
大野聖良 (Sera Ono) 日本学術振興会特別研究員 RPD／神戸大学	(セ) 米国移民管理レジーム下でのトランスナショナルな社会空間 の再編	53 頁
小浜 正子 (Masako Obama) 日本大学	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
リチャ・オーリ (Richa Ohri) 千葉大学	(セ) Gender Matters: Being a Foreign Academic in Japan	70 頁
片山亜紀 (Aki Katayama) 獨協大学	(セ) ヴァージニア・ウルフのフェミニズム	57 頁
金井 郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
小井土彰宏 (Akihiro Koido) 一橋大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
後藤浩子 (Hiroko Goto) 法政大学	(セ) ブリテンにおけるフランス革命論争	66 頁
定松文 (Aya Sadamatsu) 恵泉女学園大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
高松香奈 (Kana Takamatsu) 国際基督教大学	(シ) 開発・教育・ジェンダー	48 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【国内】		
立川 潔 (Kiyoshi Tachikawa) 成城大学	(セ) ブリテンにおけるフランス革命論争	66 頁
中力 えり (Eri Churiki) 和光大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
柘植 あづみ (Azumi Tsuge) 明治学院大学	(セ) Data Reporting as Care Infrastructure: Feminist Approaches to ART Registries	51 頁
三浦 まり (Mari Miura) 上智大学	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
宮崎 理枝 (Rie Miyazaki) 大月短期大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
森 明子 (Akiko Mori) 湘南鎌倉医療大学	(セ) 月経教育と女性の生涯の健康	62 頁
森 千香子 (Chikako Mori) 同志社大学	(セ) 『家事労働の国際社会学』を読む	59 頁
【学内】		
佐々木 泰子 (Yasuko Sasaki) 理事・副学長、グローバル女性リーダー育成研究機構長	(シ) The Egalitarian Norway: Scrutinizing the ‘Success Story’	45 頁
ダイアン・ホーリー・ナガトモ (Diane Hawley Nagatomo) 基幹研究院人文科学系	(セ) Gender Matters: Being a Foreign Academic in Japan	70 頁
天野 知香 (Chika Amano) 基幹研究院人文科学系	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
水野 勲 (Chika Amano) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
森 義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
倉光 ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
石丸 径一郎 (Keiichiro Ishimaru) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	111 頁
高橋 さきの (Sakino Takahashi) 非常勤講師	(セ) ダナ・ハラウェイのフェミニズム	64 頁
松田 デレク (Derek Matsuda) 国際教育センター	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	89 頁
	(連) INTPART プロジェクト	96 頁

【資料】④国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 国際シンポジウム		
11/30	国際シンポジウム〔INTPART-IGS プロジェクト〕 The Egalitarian Norway: Scrutinizing the ‘Success Story’ (平等国家ノルウェーの「サクセスストーリー」) 【基調講演】ブリシラ・リングローズ(ノルウェー科学技術大学教授) 【ディスカッサント】戸谷陽子(IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 松田デレク(お茶の水女子大学国際教育センター／グローバルリーダーシップ研究所講師) 【パネリスト】グロ・コースニス・クリステンセン(ノルウェー科学技術大学教授) シリ・エイスレボ・ソレンセン(ノルウェー科学技術大学教授) 【司会】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー) 【開会挨拶】インガ・M・W・ニーハマル(駐日ノルウェー大使) 佐々木泰子(お茶の水女子大学理事・副学長、グローバル女性リーダー育成研究機構長) 【閉会挨拶】石井クンツ昌子(INTPART プロジェクトお茶大代表、IGS 客員研究員、お茶の水女子大学名誉教授、立教大学特任教授) 【主催】ジェンダー研究 【後援】ノルウェー大使館 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】110 名	45 頁
2/1	国際シンポジウム AIT ワークショップ 20 年記念シンポジウム 開発・教育・ジェンダー Development, Education, and Gender 【司会】平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー) 【報告】板井広明(IGS 特任講師) 日下部京子(アジア工科大学院大学教授) 大類由貴(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター プログラム・オフィサー) ソン・チャンフィ(アジア工科大学院大学博士課程) 【講演】大崎麻子(NPO 法人Gender Action Platform 理事／関西学院大学総合政策学部客員教授／兵庫県豊岡市ジェンダー・アドバイザー) 【コメント】高松香奈(国際基督教大学上級准教授) 大橋史恵(IGS 准教授) 【挨拶】申琪榮(IGS 教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】77 名	48 頁
IGS 主催 IGS セミナー		
7/16	生殖領域シリーズ Data Reporting as Care Infrastructure: Feminist Approaches to ART Registries (ケアのインフラストラクチャーとしての臨床データ報告 生殖補助技術(ART)の臨床結果登録に対するフェミニストアプローチ) 【講演】吳嘉苓(ウー・チアリン)(国立台湾大学教授) 【討論】柘植あづみ(明治学院大学教授) 【司会】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語(日本語逐次通訳) 【参加者数】64 名	51 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
7/25	米国移民管理レジーム下でのトランスナショナルな社会空間の再編 メキシコ村落出身移民と家族のジェンダー化された「道徳的秩序」に着目して 【司会】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー) 【講演】飯尾真貴子 (一橋大学・博士) 【討論】大野聖良 (日本学術振興会特別研究員 RPD) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】67 名	53 頁
9/9	生殖領域シリーズ Family Building by Donor Conception and Donor-linking (提供精子・提供卵子による家族づくりとドナーリンキング(血縁者探し)) 【司会】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー) 【講演】デボラ・デンプシー (スウィンバーン工科大学准教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 (日本語逐次通訳) 【参加者数】101 名	55 頁
10/12	ヴァージニア・ウルフのフェミニズム 現代日本との呼応 【司会】板井広明 (IGS 特任講師) 【講師】片山亜紀 (獨協大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】127 名	57 頁
11/15	『家事労働の国際社会学』を読む 【司会】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー) 【評者】足立真理子 (お茶の水女子大学名誉教授・IGS 客員研究員) 伊田久美子 (大阪府立大学名誉教授・同大学客員研究員) 【応答者】伊藤るり (津田塾大学教授) 定松文 (恵泉女学園大学教授) 小ヶ谷千穂 (フェリス女学院大学教授) 平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー) 大橋史恵 (IGS 准教授) 巢内尚子 (ラバル大学博士課程) 中力えり (和光大学教授) 宮崎理枝 (大月短期大学教授) 篠崎香子 (ザルツブルグ大学教授) 小井土彰宏 (一橋大学教授) 森千香子 (同志社大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【共催】「国際移動とジェンダー (IMAGE)」研究会 科研費基盤 (C) (課題番号: 20K02094) 「パリのフィリピン人家事労働者とその生活世界」 科研費基盤 (B) (課題番号: 19H01578) 「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」 【後援】科研費基盤 B (課題番号: 20H01586) 「移住者支援の国際社会学」 【参加者数】112 名	59 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
11/21	生殖領域シリーズ 月経教育と女性の生涯の健康 【司会】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー) 【講演】マウラ・スティーブンス・チュ(米国ハワイ大学大学院社会科学科博士課程在籍、講師) 森明子(湘南鎌倉医療大学看護学部看護学科教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】97 名	62 頁
1/13	学内限定セミナー ダナ・ハラウェイのフェミニズム 【司会】板井広明 (IGS 特任講師) 【講師】高橋さきの(翻訳者・お茶の水女子大学非常勤講師) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】23 名	64 頁
1/22	ブリテンにおけるフランス革命論争 パーク vs ウルストンクラフト 【司会】板井広明 (IGS 特任講師) 【報告者】後藤浩子(法政大学教授) 梅垣千尋(青山学院女子短期大学教授) 清水和子(英語英文学者) 【討論者】立川潔(成城大学教授) 犬塚元(法政大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】23 名	66 頁
2/6	インドネシアで家事労働者を組織化すること 【司会】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー) 【講演】リタ・アングライニ (Jaringan Nasional Advokasi Pekerja Rumah Tangga (Jala PRT) コーディネーター) 【ディスカッサント】アニ・スチプト(インドネシア大学准教授) 平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー) 【通訳】ワオデ・ハニファー・イスティコマ(一橋大学大学院博士後期課程) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】インドネシア語／日本語(日本語逐次通訳) 【参加者数】58 名	68 頁
2/16	Gender Matters : Being a Foreign Academic in Japan (日本の大学における外国人女性教員のアイデンティティ理論:ジェンダーの観点から) 【司会】戸谷陽子 (IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【研究報告】ダイアン・ホーリー・ナガトモ(お茶の水女子大学教授) リチャ・オーリ(千葉大学講師) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】101 名	70 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS 研究会		
3/11	IGS 研究協力員研究報告会 【挨拶】申琪榮 (IGS 教授) 【司会】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー) 【報告】山根純佳 (実践女子大学准教授) 佐野潤子 (慶応義塾大学特任講師) 【コメント】戸谷陽子 (IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】26 名	72 頁
IGS 共催		
11/22	石井クンツ昌子名誉教授 最終講義 私のポジティブ家族社会学: 日米の研究・教育生活	74 頁

【資料】⑤2020 年度新規収蔵図書・資料

・2020 年度、外部からの寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』(著者名)〕(敬称略)

吉田朋子『最小の結婚:結婚をめぐる法と道徳』(エリザベス・ブレイク著;羽生有希[ほか]訳)／申琪榮『時効なき日本軍「慰安婦」問題を問う』(瀬瀬厚編,朴容九編)／アイデム人と仕事研究所『女性活躍の現状と課題:女性活躍推進で見た 2 つめの壁』(アイデム人と仕事研究所編)／中西直樹『戦後学生雑誌と学生運動:『学生評論』『季刊大学』『大学』『学園評論』解説・総目次・索引(中西直樹)／晃洋書房『「僧侶らしさ」と「女性らしさ」の宗教社会学:日蓮宗女性僧侶の事例から』(丹羽宣子)

・2020 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『A history of feminist and gender economics』(Giandomenica Becchio)／『Collective bargaining and gender equality』(Jane Pillinger, Nora Wintour)／『Intimacy and reproduction in contemporary Japan』(Genaro Castro-Vázquez)／Maternal geographies: mothering in and out of place』(edited by Jennifer L. Johnson & Krista Johnston)／『Transgender history: the roots of today's revolution』(Susan Stryker)／『21 世紀家族へ』(落合恵美子)／『LGBTI の雇用と労働:当事者の困難とその解決方法を考える』(三成美保編・著)／『LGBT ヒストリーブック:絶対に諦めなかった人々の 100 年の闘い』(ジェローム・ポーレン著;北丸雄二訳)／『ヴィータ:遺棄された者たちの生』(ジョアオ・ビール著;トルベン・エスケロウ写真;桑島薫,水野友美子訳)／『オレの心は負けてない:在日朝鮮人「慰安婦」宋神道(ソンシンド)のたたかい』(在日の慰安婦裁判を支える会編)／『買春(かいしゅん)する帝国:日本軍「慰安婦」問題の基底(吉見義明)／『官製ワーキングプアの女性たち:あなたを支える人たちのリアル』(竹信三恵子,戒能民江,瀬山紀子編)／『国際女性の地位協会あゆみ:30 周年記念誌』(国際女性の地位協会編)／『ジェンダーからソーシャルワークを問う』(横山登志子,須藤八千代,大嶋栄子編著;鶴野隆浩[ほか]著)／『ジェンダー研究=Journal of gender studies』(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター[編集])／『ジェンダー不平等を超える:「北京+25」』(日本婦人団体連合会編)／『女性のいない民主主義(前田健太郎)／『女性の参画が政治を変える:候補者均等法の活かし方』(辻村みよ子,三浦まり,糠塚康江編著)／『身体を引き受ける:トランスジェンダーと物質性(マテリアリティ)のレトリック』(ゲイル・サラモン著;藤高和輝訳)／『「尊厳ある社会」に向けた法の貢献:社会法とジェンダー法の協働:浅倉むつ子先生古稀記念論集』(島田陽一[ほか]編)／『出会いと結婚』(佐藤博樹,石田浩編;東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター編集協力)／『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか:技術とジェンダーの日独比較社会史』(石井香江)／『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション:人種、ジェンダー、性的指向:マイノリティに向けられる無意識の差別』(デラルド・ウィン・スー著;マイクロアグレッション研究会訳)／『パンドラの匣:跳び出そう!心の冒険旅行に』1 号、3 号(牧神社)／『人の国際移動と現代日本の法:人身取引・外国人労働・入管法制』(大久保史郎,樋爪誠,吉田美喜夫編著)／『福岡県女性史・女性学ノート』1～3 号(福岡県女性史・女性学研究協議会[編])／『女性史・女性学ノート』4～6、8～9 号(女性史・女性学の会[編])／『フランスの同性婚と親子関係:ジェンダー平等と結婚・家族の変容』(イレヌ・テリー著;石田久仁子,井上たか子訳)／『北京+5 グローバルフェミニストシンポジウム報告書』(2000 年プロジェクト日本準備委員会[編])

・2020 年度、購入によりジェンダー研究所から以下の電子書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『越境の国際政治—国境を越える人々と国家間関係—』(田所昌幸)／『関係の対等性と平等(法哲学叢書 第 2 期 2)』(森悠一郎)／『近代日本のメディア議員—「政治のメディア化」の歴史社会学—』(佐藤卓己)／『現代

日本の市民社会—サードセクター調査による実証分析—(後房雄)／『女性の世界地図—女たちの経験・現在地・これから—』(ジョニー・シーガー)／『資料で読み解く国際関係』(佐道明広)／『政策過程の理論分析』(岩崎正洋)／『政治に口出しする女はお嫌いですか? —スタール夫人の言論 vs. ナポレオンの独裁—』(工藤庸子)／『政治変動期の圧力団体』(辻中豊)／『性暴力の罪の行為と類型—フェミニズムと刑法—』(森川恭剛)／『地方選挙総覧 平成篇 1989-2019—知事・市長・特別区長—』(日外アソシエーツ)／『統治の抗争史—フーコー講義 1978-79—』(重田園江)／『日本安全保障史事典—トピックス 1945-2017—』(日外アソシエーツ株式会社)／『日本社会党・総評の軌跡と内実—20 人のオーラル・ヒストリー—(法政大学大原社会問題研究所叢書)』(五十嵐仁)／『日本女性史事典—トピックス 1868-2015—』(日外アソシエーツ編集部)／『マスメディアと社会生活—ジェンダー・地方・ダイバーシティの視座から—』(四方由美)

【資料】⑥史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
(S52)	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
1978	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
(S53)	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
1979	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
(S54)	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50 年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於: 中村屋	
1980	研究会	1980/4/1	平安時代の相統制と女子相統権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
(S55)	研究会	1980/4/23	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅰ〕	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅱ〕	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	〔コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について〕【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
	研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵
1981	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
(S56)	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニュージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
	研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子	
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか
	研究会	1982/11/24	バンガラディシュの女性について	武藤敦子
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚暉子ほか
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出版	石崎昇子ほか
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women' Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランシスカ・フンチカ
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子
	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの	
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男
		1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相続—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—自然な女」の周辺—	宮内淳子
1986 (S61)	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視点から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
1987 (S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転勤の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
1988 (S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向かって』が提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
1989 (H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29,12/20,1990/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990 (H2)	シンポジウム	1990/4/23,24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	館かおるほか
	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のはざまにて	花見槇子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991 (H3)	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweek
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Ronnblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗国千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992 (H4)	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖縄における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21,28,12/5	次世代育成能力を考える	原ひろ子ほか
1993 (H5)	研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッターールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子
	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
	研究会	1993/6/24	女性と表彰—“模範嫁”表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
	研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education — A case of the University of California USA —	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender,Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会/シンポ	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender,Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国会議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレーヌ・ランジュヴァン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
	研究会/シンポ	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる

【資料】⑦国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 研究員
- (4) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる職員を置くことができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 特別招聘教授
- (3) 特任教員
- (4) 客員研究員
- (5) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、男女共同参画を担当する副学長並びに基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員(以下「系会議構成員」という。)である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第6条 副研究所長は、系会議構成員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第7条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第8条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第9条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第10条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 副研究所長

(3) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(4) 第4条第1項第3号に掲げる研究員のうちからグローバル女性リーダー育成研究機構長(以下「研究機構長」という。)が指名する者

(5) その他研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

【資料】⑧国立大学法人お茶の水女子大学特別招聘教授に関する規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則(以下「職員就業規則」という。)第 4 条第 5 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)のグローバル女性リーダー育成研究機構に置く研究所において雇用する特別招聘教授に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規則において「特別招聘教授」とは、国際的に著名な研究者又は顕著な業績を有する研究者で、グローバルな視野から本学の教育研究活動の一層の推進及び活性化を図ることを目的として、本学が常勤の教員として採用する者をいう。

(選考)

第 3 条 特別招聘教授の選考は、教員人事会議の議を経て、学長が行う。ただし選考に係る審査は、基幹研究院長に付託するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長の戦略的人事による選考は、役員会の議を経て、学長が行うものとする。

3 前 2 項の選考にあたっては、国立大学法人お茶の水女子大学教員選考基準第 1 条の規定を準用する。

(定年・雇用期間)

第 4 条 特別招聘教授の定年は 65 歳とし、当該定年に達した日以降における最初の 3 月 31 日(以下「定年退職日」という。)に退職するものとする。ただし、学長が特に必要があると認める職員については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認める場合には、5 年以内の期間を定めて雇用することができる。

(給与及び退職手当)

第 5 条 特別招聘教授の給与は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則第 4 条第 4 項の規定に基づき年俸制を適用して雇用する教員の就業に関する規則(以下「年俸制適用教員の就業に関する規則」という。)第 2 条第 1 号の規定に基づき採用された教員に関する同規則第 6 条から第 13 条の規定を適用する。

2 特別招聘教授の退職手当は支給しない。

(赴任及び帰国旅費)

第 6 条 特別招聘教授には、赴任及び帰国のための旅費を支給する。ただし、帰国のための旅費は退職後 3 か月以内に本邦を出発する場合に限り支給し、一時帰国のための旅費は学長が必要と認める場合に支給するものとする。

(就業等)

第 7 条 特別招聘教授の就業に関し、この規則に定めのない事項については、職員就業規則の定めるところによる。

2 特別招聘教授の給与に関し、この規則に定めのない事項については、国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の定めるところによる。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、特別招聘教授に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に採用される特別招聘教授は、この規則に基づき選考されたものとみなす。

附 則(平成 27 年 10 月 23 日)

この規則は、平成 27 年 10 月 23 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 19 日)

この規則は、平成 28 年 2 月 19 日から施行する。

【資料】⑨『ジェンダー研究』編集方針・投稿規程

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規程》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する者とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は原則として、
日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 20,000 字以内
英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 8,000 ワード以内
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
 - 6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。
(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
 - 6-2 日本語要旨。400 字以内。
 - 6-3 英語要旨。200 ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
 - 6-4 キーワード。日本語・英語ともに 5 語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。

- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める＜『ジェンダー研究』執筆要項＞に従う。英語の投稿論文は Harvard Referencing System とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

(2017 年 10 月 27 日改訂)

【資料】⑩ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。

国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
ジェンダー研究所（IGS）
2020（令和2）年度事業報告書

編集担当：申琪榮・和田容子

発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp>

2021 年 9 月作成

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学 ジェンダー研究所

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University
2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610 Japan

TEL: 03-5978-5846 FAX: 03-5978-5845

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp>

